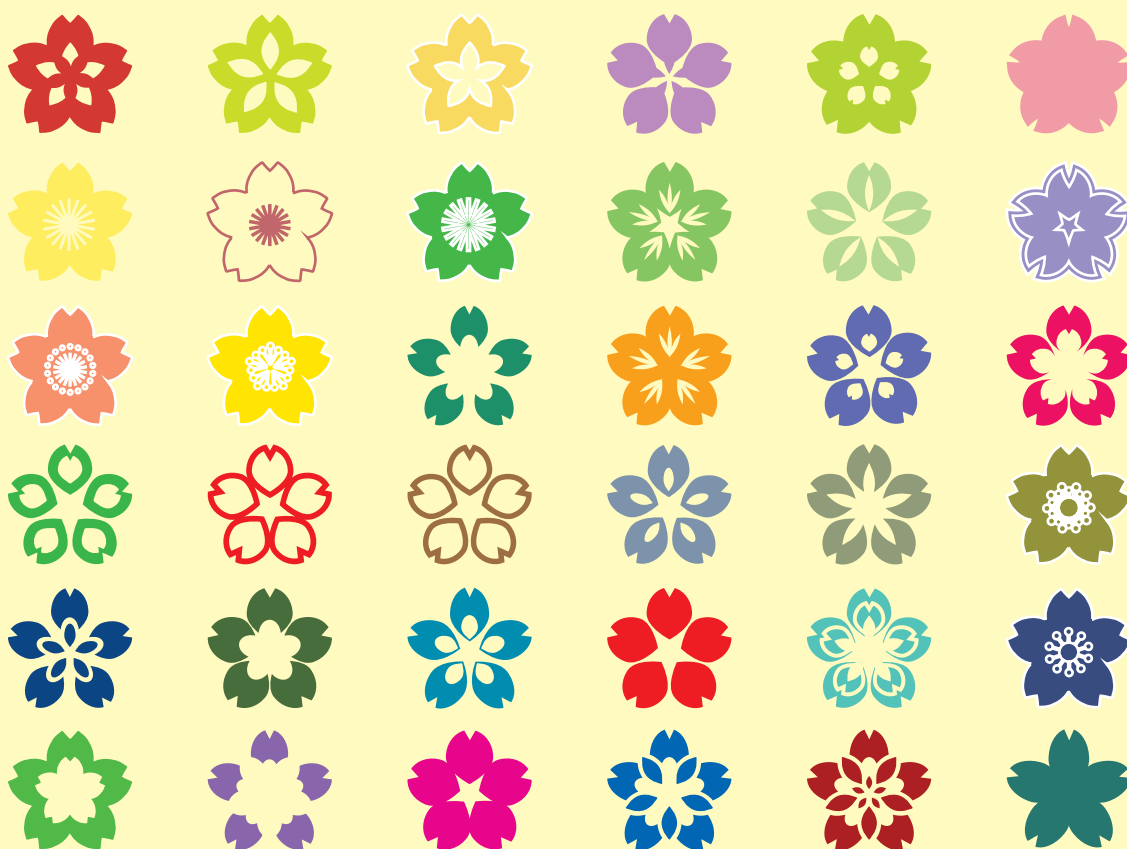


NT

NISSEKI TOKYO

2020
Spring
Vol.25



特集 *Life is colorful !*

～ “私らしく” を応援する ～

- 04 被災者に寄り添う赤十字
- 06 れっどくろす News&Topics
- 08 **特集**
Life is colorful!
～“私らしく”を応援する～
- 18 Hospital Referral
武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院
- 21 献血 NEWS
- 22 福祉施設 NEWS
- 23 国際 NEWS
- 24 行け!OLレポーター オカモト★ 日赤とつげきレポ —vol.19 まちだ献血ルームcomfy編—
- 25 NT information
- 26 赤十字Supporters
- 27 活動資金協力者(社)・団体のご紹介
- 28 プレゼント
- 30 Rediscovery TOKYO —第18回 上野—



私たちは忘れない

あのときのことを。

そこにいた人たちの思いを。

その教訓を未来の防災につなげる。

私にも、あなたにも、できることがある。

防災・減災プロジェクト
～私たちは、忘れない。～



みんなの忘れない思いを見る



東京都支部
特設サイト

<https://www.tokyo.jrc.or.jp/lp/tsunagu/>

日赤 東京 忘れない



もしも災害が起こったら・・・

近年、多発する大雨災害。昨年の台風第15号・第19号は、私たちの住む地域にも多くの爪痕を残していきました。

この災害にあたり、日本赤十字社は116班の医療救護班を派遣。

浸水した医療施設の患者搬送を支援したり、避難場所や地域を巡回するなどして、

被災者の命と健康を守る活動を行いました。

日本赤十字社はこれからも、大規模災害に備えてさらなる支援体制の充実を目指します。

未来の被災者をひとりでも少なくするために、赤十字活動資金へのご協力をお願いします。



被災をした
東京太郎一家

救護をする
日本赤十字社

大雨災害発生!

直ちに 救護体制に

全国に医療救護班を配備し、日頃から救護訓練を行っているため、日本のどこで災害が起きても、すぐに現地へ駆けつけることができます。

急行!

ボランティアと連携し、被災地へ向かう準備

家はいらふない
避難所へ行こう!

災害時は医療機能が停止し、治療や薬の処方が受けられない恐れがあります。



けがをして
しまった...

救う



医療救護

地元医療機関の機能が回復するまで、被災地のニーズに合わせ、救護所の設置や巡回診療を行います。



避難所では...

避難所は冷暖房設備がない場合が多く、また様々な人たちが生活し、プライバシーの確保も難しくなります。



寒い、暑い...
不便だなあ

支える



救援物資の配布

少しでも快適に過ごしてもらうよう、毛布や安眠セット、緊急セットなどの救援物資を配布します。



避難所生活が長期化すると体調を崩したり、精神的ストレスが大きくなります。



不安な日々...

寄り添う



衛生管理 こころのケア

避難所生活での健康管理やストレスを少しでも軽減するためのサポートを行います。



赤十字の支援

まさか
自分が...
同じ思いを
してほくない

過去の災害を忘れずに、
今できることを



未来への備え

救えるはずの命を 諦めたくない。

日本赤十字社は大規模災害に備え、支援体制を充実させるとともに、子どもたちの未来のため、災害の教訓を次の世代へ繋ぐ防災教育を推進していきます。



ひとりでも多くの命を救うため、

赤十字活動資金に
ご協力をお願いします

タイタン×赤十字 協働プロジェクト発足！



この度、東京都支部は、株式会社タイタン（代表取締役：太田光代様）との協働プロジェクトを発足させました。東京都支部は、東京都民の安全・安心を支えるべく、災害救護活動や救急法等の普及など、身近なところで活動を続けてまいりました。その活動の原点でもある「苦しんでいる人を救いたい」

という思いに対して、同社の代表取締役である太田光代様が共感くださり、個人としてのご支援のみならず、法人としての社会貢献活動という形で赤十字活動へのご協力をお申し出いただいたことをきっかけとして、今回の協働という形に発展しました。太田様の社会貢献に対するお気持ちを共有するタイ

タン所属タレントの皆さまにもさまざまな場面で赤十字活動の輪を広げるための取り組みを展開していただきます。この心強い後押しを受けて、災害などの脅威に対してより一層の安全・安心をお届けするべく今後も尽力してまいります。

（太田様のインタビューを26ページに掲載）

Project

1 救急法等の普及

いざという時に命を救うための応急手当をタイタンのタレントが学び、そこで感じた大切なポイントやメッセージなどを発信することで、より多くの方々が応急手当を学び、習得するきっかけを創出していきます。

救急法講習の受講、SNSを活用した心肺蘇生法普及など



Project

2 「私たちは、忘れない。」

過去の災害から学び、未来の災害に活かす。「忘れない」というメッセージに込められた意味をタイタンのタレントが幅広い方々に向けて発信することで、防災・減災の啓発を推進していきます。

特設サイトでのメッセージや防災ワンポイント動画の発信、プロジェクト主旨拡散への協力など



Project

3 赤十字施設の支援

児童養護施設で暮らす子どもたちとタイタンのタレントがイベントや遊びを通じたコミュニケーションを深めていくことで、笑いや学びを届け、健やかな成長の一助となることを目指します。

番組収録への招待、施設の季節イベントへの出演など



協働プロジェクトは3つのプロジェクトを柱として展開。救急法等の普及プロジェクトでは、太田社長自ら講習を受講され、認定証を手に入れました。この他、3月から展開している「私たちは、忘れない。」プロジェクトでは特設サイトでタイタンの皆さまのメッセージなども公開しています。

詳しくは、
こちら！



赤十字ボランティアセッションを開催 災害時の活動を考える

東京都支部では、日ごろからご協力いただいている赤十字ボランティアの交流事業として、赤十字ボランティアセッションを開催しています。今年は、さまざまな分野から専門の講師を招き、2月4日には避難所の運営を机上で再現する「エマルゴ」トレーニング、2月

18日には被災者救援活動の基準を定めた「スフィアプロジェクト」について、講義とグループワークで理解を深めました。

自分たちの地域で災害が発生した際に、赤十字ボランティアとしてどのような活動が必要となるか考え、地域、特殊、青年など奉仕

参加者からは、「避難所の運営について具体的にイメージすることができた。課題はまだたくさんあるが、いざという時に備えて、地域の人たちと協力して対応する仕組みをつくっていききたい」などのコメントが寄せられました。



体育館のマップを広げ避難所運営を体験



スフィアプロジェクトの講義の様子

新宿の街を駆ける！ 救護ランナーが疾走

東京都支部の職員が1月26日、新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンに救護ランナーとして参加しました。救急法が実践できる職員、赤十字ボランティア、国士舘大学の救急救命士と学生ボランティアがAEDや応急手当セットを携行し、ランナーの安全・安心のために活動しました。幸い、当日は大きなケガや事故もなく終えることができました。



完成した国立競技場をバックに

世界を舞台に成長中！ JRCメンバー連絡協議会で帰国報告



岩井さん「スピードと車両事故死亡率にブレーキを！」

令和元年度5回目となる東京都青少年赤十字（JRC）メンバー連絡協議会が1月25日に開催され、海外へ派遣された2人の高校生がそれぞれ帰国報告を行いました。

順天高等学校2年の岩井里紗さんは、モンゴルで開催された2019 East Asia Youth Camp Gathering に参加。東アジアのJRCメンバーとRoad Safety（交通安全）についてのアクションプランを発表しました。

「青少年赤十字海外支援事業（通称：1円

玉募金）スタディーツアー」として大洋州のバヌアツに派遣された順天高等学校1年の富澤二葉さんは、防災教育支援について発表。現地の学校で授業や避難訓練を見学し、さらなる支援の必要性和自分ができていることを考えるようになったと話しました。

2人の話に他のメンバーも真剣に聞き入っていました。東京都支部では、今後も世界を舞台に活躍するJRCメンバーを応援していきます！



富澤さんは東京私学高等学校弁論大会にて優秀賞二席を受賞



旅、スポーツ、ファッションなどの趣味、人との出会いや経験…

人生を彩るものはたくさんある。

生き方の多様性が認められる時代。

「自分らしく生きる」とは、

「“その人らしさ”を尊重する」とは、ということなのだろうか。

「旅行が大好きだけど、歳をとったらあきらめないと」

「足を切断したから、もうスポーツは楽しめない」

時に、前向きに生きることを困難にする、さまざまな“壁”。

その壁は、目に見えるものもあれば、人の心の中に潜んでいることもある。

今回の特集では、そんな壁に挑み、誰かの“自分らしく”を応援する人を紹介する。

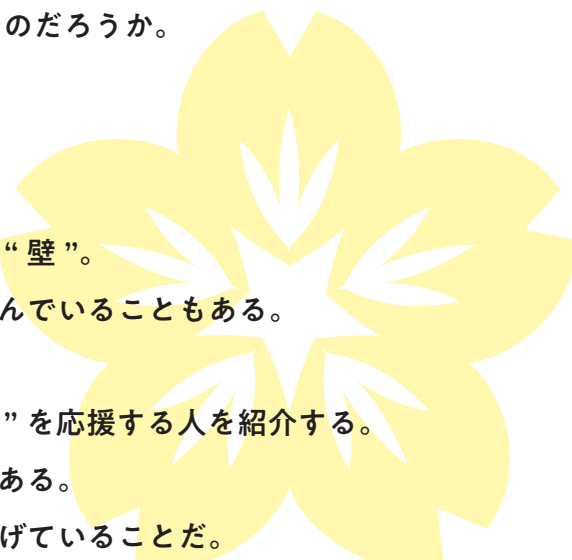
取り組みの内容はさまざまだが、共通していることがある。

それは、前向きに生きようとする人を応援する輪を広げていることだ。

ひとりでは難しくても、誰かと一緒なら前を向けることがある。

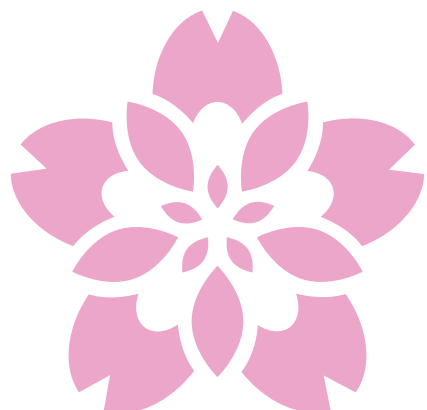
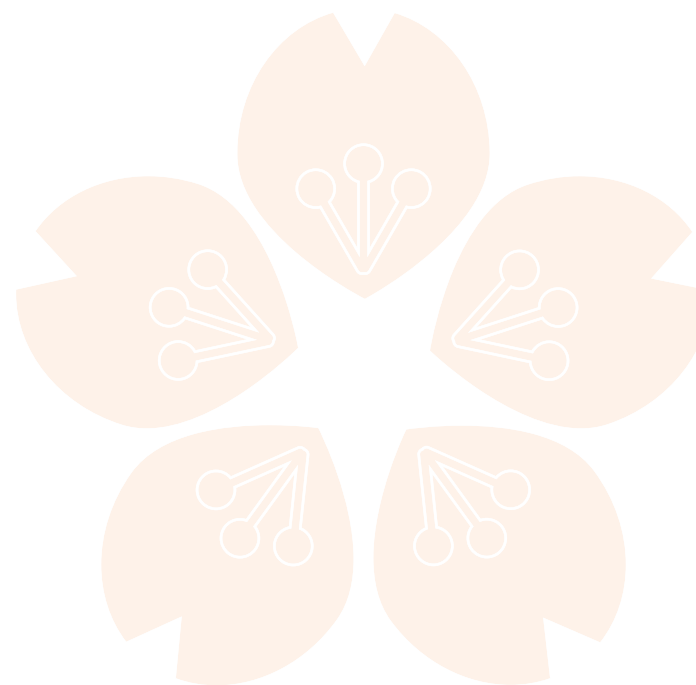
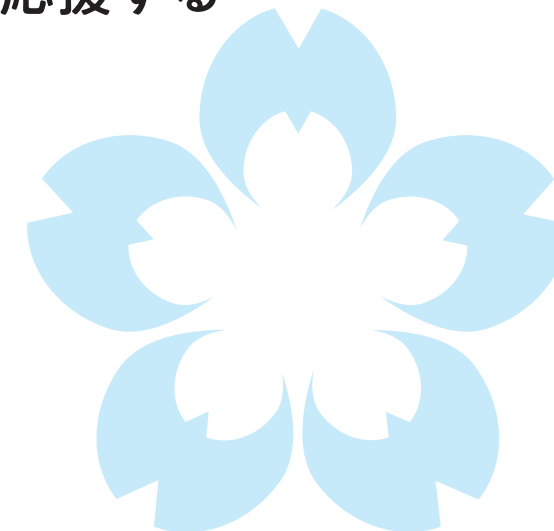
いきいきと人生を楽しむ人、その姿を応援する人。

それぞれから、自分らしい生き方のヒントを探っていきたい。



Life is colorful !

～ “自分らしく” を応援する～





季節を楽しむお花見、施設では食べられない新鮮な魚介、温泉、海、山、砂漠…旅の目的はさまざま。旅行が好きな本人たつての希望というケースもありますが、介護が必要な家族との旅行をサポートしてほしいという声も多く寄せられています。少しずつ目的地を遠くに設定して、旅に向けリハビリに精を出す人も。



身体が不自由でも旅を楽しんでほしい

「トラベルヘルパーとは、身体の不自由な人たちの旅行を助ける人のこと。介護の技術と旅の知識を持つ、バリアフリー旅行のプロたちです」と説明してくれたのは、日本トラベルヘルパー協会会長の篠塚恭一さん。㈱SPIあ・える倶楽部で20年以上前から介護旅行を提供し、2006年にトラベルヘルパーを育成する同協会を設立しました。

篠塚さんはもともと、大手旅行会社の添乗員でした。ある時、長い付き合いのあった70歳代のお客さんがつぶやきました。「どんなに旅行が好きでも、いつか自分の荷物が増えてなくなったら、あきらめないよね」。この一言が、介護

高齢者の旅を阻む「壁」を乗り越えながら

篠塚さんが介護旅行を始めた当時は、70歳以上の人は健康診断書を持参しないと飛行機に搭乗させてもらえないような時代でした。

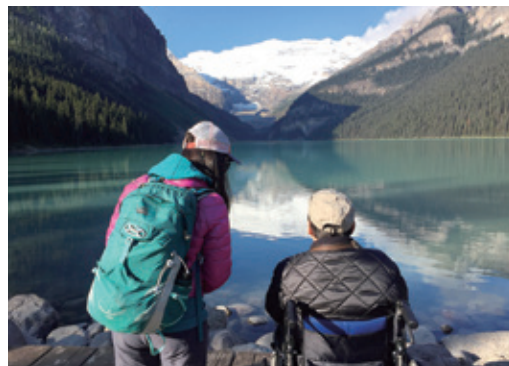
「在宅酸素療法の人や、酸素ボンベを持って飛行機に乗りうとして搭乗拒否されることも少なく

旅行を考える大きなきっかけになったそうです。

「歳をとれば誰でも病気が気になるし、身体も不自由になる。そうなるまで旅行や外出をあきらめなくてもいいように、何かできることはないかと考えました」

とはいえ、ノウハウも何もなかった篠塚さん。最初は障害のある人たちと外出を共にして、どんな介助や支援が必要かについて教わりました。「観光情報とバリアフリー情報を英語で発信している赤十字語学奉仕団のメンバーと一緒に、築地に出かけたこともありますよ」。

1995年頃からお年寄りや障害者向けの旅行サービスをスタートさせ、98年にお年寄りの旅を支える「あ・える倶楽部」を立ち上げました。



提供写真はすべて©SPIあ・える倶楽部

Case 01 | NPO法人日本トラベルヘルパー協会 会長 篠塚 恭一さん



「いくつになっても旅がしたい!」を応援



KYOICHI SHINOZUKA

1961年生まれ。大手旅行会社の添乗員、旅行専門の人材派遣会社勤務などを経て、1991年に旅行会社へ添乗員派遣などを行う㈱SPIを設立。1990年代半ばから高齢者や障がい者向けのサービスをスタートさせ、1998年に「あ・える倶楽部」、2006年にNPO法人トラベルヘルパー協会を立ち上げた。

超高齢社会・日本。歳をとって介護が必要になったからと、旅行をあきらめてしまう人も多いのではないのでしょうか。そんなお年寄りや身体の不自由な人たちの旅を応援しているのが、トラベルヘルパー（外出支援専門員）です。車いすでも持病があっても、バリアフリーな「介護旅行」を実現してくれます。



多くの仲間が特攻隊として出撃していった
鹿児島・知覧を訪れた男性。



満州から引き揚げてくる途中で弟妹を亡くした女性。トラベルヘルパーとともに慰霊の旅を実現しました。

《トラベルヘルパー養成講座》

トラベルヘルパーの有資格者は医療・介護の経験者が多いものの、介護等の経験がない場合でも3級から受講できます。



トラベルヘルパーたちは旅行者の相談に応じて介護旅行のプランを立て、旅先で同行してケアサービスを行うほか、旅行後は思い出をアルバムにもまとめています。旅行した本人だけでなく家族にとっても良い思い出になっています。

詳しくは NPO 法人日本トラベルヘルパー協会 <https://www.travelhelper.jp>

- 3級** 家族で初めてバリアフリー旅行に取り組みたい方、学生ボランティアなど
- 準2級** 介護技術を活かして地域で外出支援、日帰り旅行支援を行いたい方など
- 2級** 国内、海外の介護旅行に同行したい方、本格的に取り組みたい方など
- 1級** トラベルヘルパー 2 級を持ち、介護旅行をコーディネートしたい方など

戦争を体験した方々が、それにまつわる旅をするケースも多くあります。戦争中、満州で育った女性、日本への引き揚げ中に亡くした弟と妹を追悼したいと中国の長春へ。同行したトラベルヘル

パーたちも涙を流しながらの感動の旅になりました。海外の旅に自信がついたのか、次はシベリア鉄道に乗りたくと話しているそうです。

特攻隊として召集されたものの

出撃することなく終戦を迎えた男性。「特攻隊仲間が飛び立った知覧に行きたい！仲間が別れを告げた開聞岳^{かいもんだけ}を見てみたい」という願いを知った娘さんが、トラベルヘルパーを利用して介護旅行を実現

してくれました。85歳になってようやく叶えた思い。開聞岳を去る時には涙を拭いていたそうです。

**「旅は最高のリハビリ」
それを支えるヘルパーたち**

あ・える倶楽部の介護旅行リピーター率は約74%。平均の要介護度は3・3、利用者の平均年齢は82・6歳です。これまでの最高齢は、なんと106歳。

こうした旅行を支えているのがトラベルヘルパーたちです。これまでに協会の養成講座を修了した人は全国で800人余りにのぼります。国内の主要な空港や新幹線の駅には、おおむねトラベルヘルパーのネットワークができています。

「移動の問題を解決すれば、外出の困難はかなり解決するんです」と篠塚さん。実はお年寄りが最も困っているのは、自宅から駅・空港、あるいは最寄りのバス停までの移動なのだとか。「旅行にしても、そもそも駅などの集合場所に行くことができない。今後は、この「ラスト・ワンマイル」のお手伝いに力を入れていきたいですね」。お年寄りと家族の笑顔のために、篠塚さんの挑戦は続きます。

「旅の効用は、日常を離れて移動して環境を変えたり、いつもとは違う人たちに会ったりすることで、気持ちの高揚や良い意味での緊張を味わえること。また、介護のお世話になっている人は、いつも人に『ありがとう』『すみませんね』と言う立場です。それが、旅行に出かけるとお客さまになって、『ありがとう』と言われる立場になる。それは精神的にも良い影響を与えていると思います」

実感しています」。

**ちょっとした外出から
海外旅行まで**

お世話や看病する立場からすれば、ケガや病気の心配がない室内にいてくれた方が安心です。「しかし、お年寄りのQOL（人生の質）を考えた場合、それは幸せなことなのでしょうか」と篠塚さんは聞かれます。

「旅の効用は、日常を離れて移動して環境を変えたり、いつもとは違う人たちに会ったりすることで、気持ちの高揚や良い意味での緊張を味わえること。また、介護のお世話になっている人は、いつも人に『ありがとう』『すみませんね』と言う立場です。それが、旅行に出かけるとお客さまになって、『ありがとう』と言われる立場になる。それは精神的にも良い影響を与えていると思います」

「カレンダーに『旅行の日』と丸印をつけておくと、その日に向けて、どんどん元気になるんですよ」と篠塚さんは話します。介護の必要なお年寄りにとって、「旅」は何よりのリハビリです。「故郷の海で泳ぎたい」と相談に来た女性、車いすに乗る97歳。水着を買いに行く外出支援から始まり、見事、願いを叶えました。



自分で選んだ水着を着て海水浴にチャレンジ。
車いすでも海を満喫できます。



初孫の結婚式を父に見せてあげたいと、新婦の母親からの依頼。「当日、父の世話ができないもどかしさを、トラベルヘルパーが一手に引き受けてくれた」と感謝のメールが届きました。結婚式などの大切な家族行事への参加を契機に、定期的に外出の機会を設けるようになったという人もいます。



今まで日本国内や世界中をたくさん旅行してきたご夫婦。ご主人が病気になってからは大好きな旅行に行けなくなり、5年ぶりの旅行でトラベルヘルパーを利用して那須塩原へ。半年後にはさらに遠くへ足を延ばし、宮城県秋保温泉へ。「旅は元気の源、まだまだ行きますよ〜。楽しまないといけないですよ」



迫力のレースを展開するパラアスリートたち



義肢装具士の白井二美男さん。写真集『切断ヴィーナス』に登場する義足はすべて、白井氏の手から生まれました。1991年、切断障害者の陸上クラブ「ヘルス・エンジェルズ」(現・スタートラインTOKYO)を設立。日本のスポーツ義足の第一人者として、現在もパラアスリートたちを技術で支える。

パラアスリートとの出会いが原点に

大学で写真を学んでいた越智さんは2000年、新聞社から得たオリンピック取材の仕事で、シドニーオリンピックを撮影しました。オリンピックの撮影後、パラリンピックの撮影も依頼されたのが、パラアスリートとの出会いになったといえます。

「当時、僕はまだ21歳。障がい者に対して、『何か支援をしてあげなければいけない人』『かわいそうだな』『頑張っている人』というイメージしかありませんでした。障がいのある人にカメラを向けていいのか、正直ためらいました」

ところが、選手たちの入場行進を見ただけで、そうしたイメージは打ち砕かれたそうです。「選手たちの笑顔にびっくりしました。各国の代表として来ているから当たり前ですが、そんなことすら想像できていなかったんですね。競技が始まると、100mを10秒、11秒台で走る選手たちや車いすバスケの迫力など、純粋に競技としての魅力にハマりました。太ももから足を切断している走り高跳びの選手が、片足で走り、ベリーローで1m80cmを跳んだ時は、撮影を忘れて固まっていたほどです(笑)」

そして、シドニーパラリンピック後もパラスポーツ選手たちを追うように。「選手たちに接すれば接するほど、自分自身がつくっていた障害に対する“壁”は低くなり、選手自身の個性や競技自体の魅力を感じるようになりました。」

『切断ヴィーナス』が誕生するまで

こうして写真家として順調に歩んでいた越智さんを2011年、アクシデントが襲います。撮影中のケガがもとでヘルニアを患い、歩くことすら困難な状態になってしまったのです。腰の痛みで撮影の仕事ができず、廃業を考えたほどでした。

幸い良い病院に会い入院した越智さんは、自分がやりたかったことは何か、改めて考えたそう

提供写真はすべて © 越智貴雄



“義足も私の個性”を発信

義足をカッコよく履きこなしている女性たちの姿を発信したい——そんな思いから、写真集『切断ヴィーナス』を2014年に発表した写真家の越智貴雄さん。11人の女性たちの生き生きとした姿は、大きな反響を呼びました。長年、パラリンピックのアスリートたちも撮影している越智さんは、「発信し続けることで、障がい者に対する社会の“壁”をなくしていきたい」と語ります。

TAKAO OCHI

1979年生まれ。大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業後、ドキュメンタリーフォトグラファーとして活動開始。2004年、パラリンピックスポーツ情報サイト「カンパラプレス」を立ち上げる。2012年には義足の陸上アスリート中西麻耶選手の競技資金協力のためカレンダーを販売し、話題に。2014年に写真集『切断ヴィーナス』を発表。カンパラプレス
<http://www.kanpara.com>





2015年8月、繊維産業で知られる石川県中能登町で行われた2回目の「切断ヴィーナスショー」。中能登町の繊維をふんだんに使用した衣装をヴィーナスたちが身にまとい、笑顔でステージを闊歩した。



2015年2月、パシフィコ横浜で行われた最初の「切断ヴィーナスショー」。ヴィーナスたちはたくさんのシャッター音とフラッシュの光に包まれた。



大西瞳さん

多臓器不全による手術の影響で右足が壊死し、大腿から切断。最初の義足に「また歩ける」と期待するも、ソケットが合わず、リハビリも進まず、行き詰まりを感じる。臼井氏と出会い、自分に合う義足を得る。リオ・パラリンピックでは走り幅跳びで6位入賞。



小林久枝さん

右足が先天性の巨趾症のため、生後より手術をくり返す。何をしてでも「不完全燃焼のまま」年を重ねたが、臼井氏と出会い、右膝下の切断を決断。「走れる！好きな靴が履ける！お神輿が担げる！諦めていた夢が、一つずつ叶ってきます」



村上清加さん

事故により右足大腿を切断し、義足生活に。「とても重たく感じ、憂鬱になったのを覚えている」。臼井氏を訪ね、切断者スポーツクラブ「ヘルス・エンジェルス」(現・スタートラインTOKYO)に参加し、義足で走ることに目標を見出す。本格的に陸上競技を始め、パラリンピック出場を目指している。



気づくと普通の義足は一つもない!? 開催を重ねるごとに進化するドリーム義足。(2019年に愛知県刈谷市で行われた11回目の「切断ヴィーナスショー」にて)

写真集『切断ヴィーナス』

越智貴雄著(白順社)
A4判カラー 80頁

足を失った女性たちが、義肢装具士・臼井二美男のもとを訪ねる——そこで出会ったのは「血の通った義足」。歩き、走り、跳ねる！時に妖艶に、時に可憐に、そして時に猛々しく、新たな生を獲得した彼女たちの強く美しい姿を活写した、気鋭のフォトグラファーによる写真集。義足のヴィーナスたち11人の競演。



と、あるお母さんが教えてくれました。そのお子さんを励ましたのはアスリートの力ですが、ポジティブな感動を伝えていく意義があると感じました」

写真集の出版後は、より広く知ってもらおうと、写真集からモデルたちが飛び出して実際に登場するファッションショー「切断ヴィーナスショー」を臼井さんとともに企画。成功するか不安だったそうですが、観客が詰めかけ大成功を収めました。すでに各地で11回の開催を重ねています。現

在は、第2弾の写真集も制作中。「ヴィーナスの卵たちが撮影を通して変わっていく姿を映し出した」と言います。

越智さんがパラアスリートたちに出会った時に感じ、その後の自身の「芯」になったのが、「知ること、世界が変わる」ということでした。自分のこれまでの見方が変わり、世界が違って見えるようになる——。そんな人が1人でも増えることを願って、障害に捉われずに自分を表現する人々の撮影を続けています。

「撮影のやり方には悩みました」という越智さん。「僕の勝手な目線で撮影してしまうのは良くない。だから、何度もヒアリングを行い、衣装やメイク、どんなシーンを撮影するのかなど、本人たちにすべて任せました」。海でのダイビングのシーンを撮影したいと言われれば、越智さんも海に潜り

「撮影のやり方には悩みました」という越智さん。「僕の勝手な目線で撮影してしまうのは良くない。だから、何度もヒアリングを行い、衣装やメイク、どんなシーンを撮影するのかなど、本人たちにすべて任せました」。海でのダイビングのシーンを撮影したいと言われれば、越智さんも海に潜り

「撮影のやり方には悩みました」という越智さん。「僕の勝手な目線で撮影してしまうのは良くない。だから、何度もヒアリングを行い、衣装やメイク、どんなシーンを撮影するのかなど、本人たちにすべて任せました」。海でのダイビングのシーンを撮影したいと言われれば、越智さんも海に潜り

「撮影のやり方には悩みました」という越智さん。「僕の勝手な目線で撮影してしまうのは良くない。だから、何度もヒアリングを行い、衣装やメイク、どんなシーンを撮影するのかなど、本人たちにすべて任せました」。海でのダイビングのシーンを撮影したいと言われれば、越智さんも海に潜り

ました。「本人たちの希望を叶えようと、徹底的にやりました」。

知ること、世界が変わる

「臼井さんの義足は、芸術の域なんです」と越智さんは語ります。臼井さんの義足をつけたアスリートの取材中、越智さんは義足に血管が浮き出ているように見えたことがあったそうです。「もちろん、本当に見えるはずはありません。それほどに、血の通った義足」だということです。

臼井さんのつくる義足は、世界でたった一つの完全オーダーメイド。スポーツのために特化した義足をつくる人もいれば、ファッション的なテイストを求める人もいます。義足が、自分らしさや個性を表現するツールにもなるのです。

「パラアスリートの撮影でも『切断ヴィーナス』でも、カッコいい彼らや彼女たちを、障がいのある人の『憧れの存在』として発信したかった。実際に、交通事故で義足になるかもしれないというお子さんが、僕が撮ったアスリートの写真を見て『カッコいい』と言ってくれて、家族に光が見えてきた



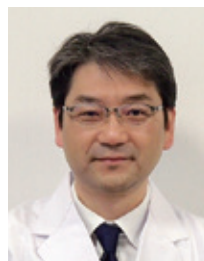
JRC OMORI HOSPITAL

大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(急患は随時)
- 病床数 344床(一般326床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

脳神経外科部長

磯島 晃
Akira Isoshima



近年、MRIなどの画像診断が進化普及し、今まで注目される事のなかった病変がわかるようになりました。特に神経の領域では、さまざまな病気が可視化されるようになりました。

脊髄空洞症の患者さんは全国に約3000人

私は脊髄空洞症という病気を専門としています。とても珍しい病気で、きちんと診断されている患者さんは全国で3000人くらいと言われています。ほとんどの方が初めて聞く病気だと思います。

ところが、手のしびれが気になる人、交通事故などで首を痛めた人がMRI検査を受けたところ、脊髄に空洞があると診断されて当院の外来を受診される患者さんが時々いらっしゃいます。

インターネットなどで調べて、歩けなくなるのではと心配されて受診されることもあります。ほとんどの方は、手術などの治療を必要としない「遺残性中心管」と言われるものです。

「遺残性中心管」は心配しなくて大丈夫！

専門的な話になりますが、遺残性中心管とは本来、胎生期に閉鎖されるはずの脊髄の中心にある管

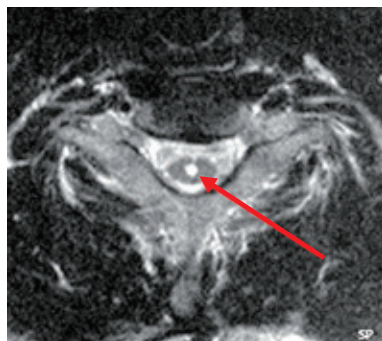
がなくならずに大人になっても残っている状態を言います。よく見ないと分からないほど小さなこともあれば、かなり大きな空洞になっている人もいます。

当院では、このような脊髄の所見を持つ方を数多く診察してきましたが、遺残性中心管と診断した患者さんには、症状が進行したり空洞が拡大したりした人は1人もいません。脊髄に空洞があると言われても、自覚症状がなく、たまにたま見つかった時は、あまり心配する必要はありません。

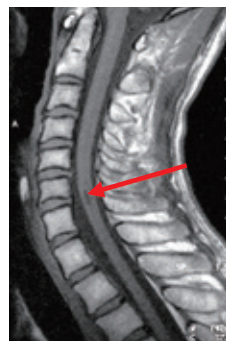
気になる場合は早期受診を

ただし、他の病気が隠れていることもあるため、やはり専門の医療機関を受診することをおすすめします。もし、脊髄空洞症と診断されたり、脊髄に水がたまっているなどと言われた時は、当院にご連絡いただければ、お力になれると思います。

専門外来も設けていますので、気になる症状のある方は、お気軽にご相談ください。



遺残性中心管のMRI画像(矢印の先が空洞部分)



ちよつと気になる脊髄の異常

「遺残性中心管」とは

Hospital Referral



JRC MUSASHINO HOSPITAL

武蔵野赤十字病院

- 所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1
- 連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
- 病床数 611床(一般528床、ICU 8床、HCU 22床、GICU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症20床)

看護係長

多治見 允信
Mitsunobu Tajimi



当院は赤十字病院として以前より災害救護活動を行っています。最近聞きなれた言葉にもなりましたが、DMAT指定病院でもあります。

DMATとは、災害派遣医療チーム (Disaster Medical Assistance Team) の頭文字を略した名称です。国が主導しているもので、主に大規模自然災害の対応チームとして、2006年から隊員の養成が始まりました。

東京都ではそれに先駆け、2004年より「東京DMAT」という名称で、自然災害以外にも、交通事故等の都市型災害に対して活動を行うチームの養成を開始し、消防とともに活動を行っています。

2019年は14件 台風第19号災害でも出動

当院では、医師7人、看護師25人、薬剤師2人、事務5人が隊員登録されています。2019年は10月までに14件(途中での引き上げ含む)の事案に対して活動を行いました。

隊員は救命科医師だけでなく、とりわけ看護師は、要請があれば救急のほか一般病棟からも出動をしています。

最近の活動としては、2019年10月に関東甲信地方や東北地方に大きな被害をもたらした台風第19号災害において病院間搬送の役割を担いました。依頼後2時間以内に準備を整え、千葉に出動しました。

DMATと救護班ともに命を救う活動

DMATと救護班の活動には、何の違いもありません。隊員の養成方法や名称の違いはありませんが、同じ救護班です。

千葉県南部に甚大な被害をもたらした2019年9月の台風第15号災害では、東京都からの要請に基づきDMAT1隊を派遣したほか、日赤として災害医療コーディネーターチームと救護班1班を派遣しました。

私たちは今後も、日本赤十字社の基本原則である「人道」の実現のために、病院内外で活動を続けていきます。

(写真はすべて台風第15号災害)



安房地域の避難所や高齢者施設、個人宅を回り医療ニーズを確認する武蔵野日赤の救護班(派遣期間: 2019年9月13~16日)



現地災害対策本部には各地から派遣された救護班が集合し、情報共有。活動終了後は、後続の救護班に引き継ぎを行う

災害や交通事故での医療活動

DMAT指定病院として

Hospital Referral



JRC KATSUSHIKA MATERNITY HOSPITAL

葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表)
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床 (産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

副院長

鈴木 俊治
Shunji Suzuki



さい帯血バンクにご協力を！

当院は臍帯血採取施設です

白血病などの治療の一つ、造血幹細胞移植では、約35%に^{さいたいけつ}臍帯血から採取された造血幹細胞が使われています。当院は、分娩時に臍帯血の採取ができる施設として登録されています。

造血幹細胞移植は、白血病などの患者さんに、血液をつくる幹となる細胞（Ⅱ造血幹細胞）を含んだ血液を投与して、正常な白血球などをつくらせること（Ⅱ造血）によって、白血病などを治療する方法です。現在、年間3500人以上の患者さんが造血幹細胞移植を受けています。

そのなかでも臍帯血の造血幹細胞を使った移植は、骨髄移植や末梢血幹細胞を使った移植に比べて、副作用の発生が少ないこと、HLA抗原（白血球の血液型にあたるもの）に若干の違いがあっても投与できるなどの利点があります。臍帯血はもとも分娩後に廃棄されるものであり、骨髄移植などと比べて提供者（妊婦さん）の負担が小さいという特長もあります。

採取施設は全国97か所

さい帯血バンクは、臍帯血から採取した造血幹細胞を集めて保存・供給している施設のことです。全国に6か所あります。臍帯血採取施設としては97の分娩施設が登録

されており、当院や日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院も登録されています。

当院では、妊娠6か月頃の妊婦健診で、臍帯血採取の目的や当院が採取施設であることを説明し、分娩までの間に臍帯血提供の希望の有無を確認しています。分娩時に採取した臍帯血はさい帯血バンクに届けられ、品質や赤ちゃんの健康状態などに問題がないことを確認後、移植用の臍帯血として登録・公開されます。

認知度アップが課題

患者さんに提供される造血幹細胞は高品質であることが求められるため、登録・公開まで至るのは、臍帯血採取が試みられたうちの1/2程度です。すべての患者さんに提供するには全国で年間約2500件の新規登録が必要ですが、なかなか厳しいのが現状です。高品質の臍帯血幹細胞が十分に提供されるためにも、さい帯血バンクの認知度アップが課題となっています。



臍帯血を提供してくれた赤ちゃん



出典：『いのちのボタン』平成30年3月第4版

さい帯血バンクについてもっと詳しく知りたい方はこちら↓



Hospital
Referral



献血後の血液の行方を追って

～医療現場を知る取り組み～

血

液センターでは、皆さまからいただいた善意の血液を安全かつ迅速に届けることを常に心掛けています。

献血でいただいた血液は、血液センターに届けられた後、血液型や感染症などの各種検査を行います。

現在の輸血医療は、必要な成分（赤血球、血しょう、血小板）のみを輸血する成分輸血が主流のため、血液を成分ごとに分けた血液製剤をつくっています。そして、温度など各製剤に最適な条件下で保管し、医療機関からの要請を受け次第、24時間365日お届けしています。

医療機関の輸血部門や 医師・看護師の仕事を見学

献血でいただいた血液を医療機関へバトンタッチするうえで、血液センターと医療機関の相互理解や連携は必要不可欠です。そのためには輸血の現状を知ろうと、献血ルームや移動採血バスの職員たちは先日、医療機関内の輸血に関わる業務を見学させていただきました。

輸血部門では、血液製剤の保管・管理業務、患者さんへの割り当て、輸血検査（患者血液型検査、交差適合試験など）について説明を受けました。

医師や看護部門では、患者さんと血液製剤の照合、輸血前確認（患者さんのバイタルチェックなど）、輸血セットとの接続、輸血開始後のバイタルチェックなどの現場を実際に見せていただきました。

献血がどれほど貴重か 伝えていきたい

参加した職員からは、「製剤の納入から何重ものチェックをしていた点が印象的だった」「輸血の場面を実際に見て、一層気が引き締まった」などの感想がありました。今後は今回の経験を生かし、貴重な献血についてより正確に伝えていきたいと考えています。

血液センターから医療機関に届くまでの流れは、『NT』vol.20(2019. Winter)p.8～p.15で紹介しています。ぜひ、こちらをご覧ください。バックナンバーはこちらから



<東京都立墨東病院での見学風景>



血小板製剤の確認作業のようす。血小板製剤に細菌が混入していないか、凝集・凝固物の有無、色調の変化、スワーリング（ゆっくりと攪拌すると確認できる渦巻き状のパターン）の有無など外観の確認も行う。同様の確認は血液センターでも行っている。



血液型不適合による副作用を未然に防止するための検査の1つ。輸血を受ける患者さんの血液とドナー（献血協力者）さんの血液を試験管内で混合して、適合するかどうか確認する。試験管を、体温に近い37℃のお湯に入れて反応を見る。

武力衝突続く南スーダンで医療支援

～武蔵野赤十字病院の看護師が活躍～



東アフリカに位置する南スーダン共和国は、約半世紀にわたる内戦を経て2011年7月、スーダン共和国から独立しました。独立後も武力衝突が続ぎ、多くの人々が支援を必要としています。

背景には食料不足

南スーダンでは、1250万人の総人口のうち3人に1人が住まいを追われ、2人に1人が深刻な飢餓に陥り食料支援を必要としています。部族間同士の争いなどから、道路などインフラの寸断や水の汚染も起こり、病院にアクセスできない住民も多くいます。

赤十字国際委員会（ICRC）は南スーダン赤十字社と連携し、食料配付や生活の自立支援、傷病者の医療支援、避難民の保護活動など幅広い人道支援を行っています。日本赤十字社も独立以前からICRCを通じて資金援助や人的貢献を続けています。



赤十字国際ニュースのメールマガジンに登録しませんか？定期的にニュースがお手元に届きます。登録・閲覧はこちら↓



赤十字国際
ニュース
(まぐまぐ)

「その現実が残念でなりません」と朝倉看護師は話します。南スーダンに平和が訪れるまで、赤十字の活動はこれからも続きます。

衝突では多くの負傷者が出たため、朝倉看護師が勤務していた病院でも3日で30人以上の負傷者を受け入れました。

「週の半分はアフリカの大地を飛び回っていました。上空から見た南スーダンは自然豊かで緑がとても美しいのに、実際は血で赤く染まってい



負傷した患者への麻酔助助を行う（左が朝倉看護師）



銃によって大腿骨を骨折した患者を搬送



銃創を負った患者に痛み止めの注射をする朝倉看護師

武蔵野赤十字保育園

みんなで楽しんだよ！
お店屋さんごっこ



たこ焼き屋さんも板についてます

新聞プールで
大はしゃぎ！



武蔵野赤十字保育園では、4歳、5歳クラスがお店屋さんをし、0歳、1歳、2歳、3歳クラスをお客さんとしてもてなす“お店屋さんごっこ”という行事を行いました。

まずは銀行でお金を下ろす

お客さんは、キャッシュカードを持って銀行へ。画用紙でできたお金を下ろし、それぞれ好きなお店に行きます。5歳クラスはたこ焼き屋さんや焼きそば屋さんだけでなく、的当てや金魚すくいのお店も出店。4歳クラスは砂場にちぎった新聞紙を敷き詰めた新聞プールや、段ボール箱をつなげてつくった迷路などでお客さんをもてなします。

食べ物やお金は本物ではありませんが、お店屋さんもお客さんも、それぞれが楽しんでいました。なかには、7回も焼きそばをおかわりする子も！

行事を通して、自分でお買い物をして食べるという楽しさを知ったのでしょうか。食べ終わったらきちんと「ごちそうさま！」とお店さんにあいさつをしていました。

園では改修工事が佳境にさしかかっています。5歳クラスのみなは3月で卒園のため、新しいお部屋で過ごすのもほんの少し。残りの行事も、思い切り楽しんでね！

赤十字子供の家

福は～内！ 鬼は～外!!
お笑い芸人さんが“鬼”に



2月3日は節分の日でしたね。子供の家にはなんと、タイタン所属のお笑い芸人の皆さんが遊びに来てくれました！どんな人たちが来るのだらうと、心待ちにしていた子どもたち。登場するや部屋中が大騒ぎになりました。お笑い芸人さんに教えてもらったネタをしっかりと覚え、「将来はお笑い芸人になりたい！」と将来の夢ができた子も。一緒に参加させていただいた職員も笑いっぱなしの時間となり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

園庭で豆まきタイム

お部屋で楽しんだ後は、場所を園庭に変えて豆まきタイム。お笑い芸人さんたちが鬼に姿を変え、再登場！

驚き、怖がる子や、芸人さんめがけてめいっばい豆をまく子、気づけば豆を食べ続けている子…と思いの様子がみられました。

「おには～そと!!」の子どもたちの元気なかけ声と、芸人さんたちにもらった笑い声とで、子供の家の“邪気”はすっかりどこかへ行ってしまったように思います。

クイズに
チャレンジ！



鬼なんか
こわくないもん！



赤十字子供の家とは…児童福祉法(第27条)に基づき、施設での保護養育が必要として東京都児童相談所から措置された子どもたちを預かる児童養護施設です。

OLレポーターオカモト★日赤とつげきレポ 紹介献血ルーム



まちだ献血ルーム comfy



🕒 受付時間

▶ 成分献血

9:30~11:30 / 13:30~16:00
※受付状況により、成分献血の受付を早めに終了させて頂くことがあります。

▶ 400・200mL

9:30~12:15 / 13:30~17:15

☎ 電話

042-732-8494 12月31日・1月1日

📍 場所

〒194-0013
東京都町田市原町田6-3-3 町映ビル7階
(JR町田駅北口・小田急町田駅西口 徒歩3分)

設置(配布)協力者を募集します!

日赤東京都支部広報誌『NT』を会社や店舗などに設置、またはご友人など周りの方に配布していただける方を募集しています。

詳しくは
☎ 03-5273-6747まで
(総務部企画課直通)



NT
NISSEKI TOKYO

Vol.25
2020年4月発行

バックナンバーは
ホームページでも
ご覧いただけます。



■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15 Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後の内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosstokyo/>

年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。



赤十字 Supporters

「お笑い」の力を

社会のためにも生かしたい

太田光代さん(株式会社タイタン代表取締役)

赤

十字との“出会い”は、東日本大震災がきっかけです。ちょうどスイスで所属タレントにイベントの仕事があり、震災の翌日に日本を発ったのです。着いた途端にイベントの中止と、原発事故によって当面、飛行機が日本に飛ばないことを知らされました。

見知らぬ国で帰国もままならなくなり、途方に暮れました。でも、せっかくスイスにいたのだから、赤十字・赤新月社連盟の本部に行ってみよう。そこで赤十字のことを知り、ぐっと身近な存在になりました。

帰国できたのは震災から1か月ほど経ってから。その間にスイスで、日本を応援するチャリティーイベントを開きました。会場となったショッピングモールは会場費を無料にしてくれましたし、現地の日本人会の皆さんにもとてもお世話になりました。イベント当日、子どもたちが持ち寄ってくれた募金だけ



「TITAN × REDCROSS」協働プロジェクト開始を記念して。
TikTok ダンスで心肺蘇生を学ぶきっかけづくりに



赤十字の原点に共感したという太田さん

でも40万円ほどになりました。

ちょうどその頃、タイタンではお笑いライブを映画館で上映する「シネマライブ」を始めたところでした。震災後の4月、まだ自粛ムードでしたが、中止せずにやろうと決めました。募金だけでなく、自分たちのできることをやりたかった。収益はすべて日本赤十字社に寄付しました。

シネマライブはその後、被災地を回りましたが、東北の皆さんは笑いに飢えていました。ライブ会場は、最初からものすごい笑い声でした。泣きながら笑っている方もいて、「笑い」は人が生きていくうえで必要なものだ、あらためて実感しました。

今回、「TITAN × REDCROSS」の協働プロジェクトを始めることになりました。募金ももちろん大切ですが、活動にも参加したいという思いからです。タイタンのタレントたちに救急法や防災などを体験してもらい、意義や必要性を少しでも伝えていけたらと思います。また、知人たちと、この間の地震・台風などの被災地支援にも取り組んでいるので、赤十字とのコラボも追求していきたいですね。

(協働プロジェクトについては7ページに掲載)

活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区		鈴木 康司	20万円	(株)稲葉製作所	100万円
エンコムウェア(株)	50万円	吉森 照夫	10万円	●江戸川区	
(株)朝日写真ニュース社	30万円	(株)フリー・ウェイブ	50万円	大矢 敦	10万円
大妻中学高等学校生徒会	16万7,502円	●渋谷区		(株)タムラ	30万円
(株)ケアネット	10万2,531円	(株)デザインフィル	45万円	●立川市	
サンベック(株)	10万円	(株)ライフプラザNEO	20万円	(宗) 真如苑	1,000万円
●中央区		リバブルアセットマネジメント(株)	11万8,738円	●武蔵野市	
岩上 公一	10万円	●中野区		飯村 孝男	50万円
(株)TOPANGA	280万4,091円	大谷 昌義	25万5,000円	●三鷹市	
ケーワンテック(株)	25万円	青柳 保	10万円	木村 得玄	100万円
●港区		●杉並区		尾崎 ハルナ	22万円
池崎 治美	500万円	井口 清	120万円	永山 敬子	10万円
(株)稲川良一商店	1,000万円	本橋 忠藏	25万円	(宗) 八幡大神社	100万円
(株)インサイド・アウト	100万円	菊池 秀夫	20万円	●青梅市	
(株)ビタブリッドジャパン	100万円	(株)ランロウドオフィス	200万円	片山 宗弘	15万円
(株)SLジャパン	50万円	昭和建物(株)	50万円	片山 恵利	15万円
イーパートナーズ(株)	30万円	あさがや清水歯科医院	10万円	●調布市	
昭和電工ユニオン本支店支部	14万4,539円	●豊島区		晃華学園麦の会	10万円
●新宿区		清水 博之	50万円	●日野市	
碓井 末雄・達彌	500万円	林 泰隆	50万円	土方 フミ	10万円
東京都日赤紺綬有功会	95万円	首都開発(株)	10万円	●東村山市	
グランヴァン(株)	74万円	●北区		當麻 祐子	10万円
(一社) 新宿韓国商人連合会	30万円	市川 政雄	10万円	(株)一休	10万円
歌舞伎町商店街振興組合	12万円	第一化学工業(株)	10万円	●国分寺市	
●台東区		●荒川区		(有)キシノ	100万円
野口 香代子	30万円	(株)日新	10万円	●国立市	
●墨田区		●板橋区		関 儀和	40万円
(株)ゴトウ	30万円	宮澤 優介	100万円	芦間 靖彦	30万円
●江東区		長尾 トモ子	10万円	保科 寛之	10万円
北島 松太郎	30万円	宮川 美知子	10万円	●西東京市	
坂元 左	10万円	若佐 和子	10万円	新井 節子	55万円
●品川区		(株)曠淳開発	10万円	吉岡 優二	10万円
金森 利幸	10万円	●練馬区		新井商事(株)	30万円
●目黒区		イトヤ食品(株)	10万円	●昭島市	
津村 重臣	10万円	パイオニア工機(株)	10万円	岩崎 五六	30万円
(株)丸十	10万円	●足立区		●千葉県	
●大田区		柳川 幸一	50万円	高橋 潔	200万円
(有)丸十オリエント	50万円	梶 千草	12万円	●兵庫県	
アメリカン電機(株)	35万1,190円	中里建設(株)	10万円	田尻 邦夫	10万円
●世田谷区		●葛飾区			
佐橋 俊彦	100万円	須藤 好雄	10万円		

(敬称略・順不同)

Present

日本赤十字社東京都支部の協賛企業様からご提供いただいています。ご応募、お待ちしております！

A.

3名様



名刺ホルダー
ダイアナ株式会社

ソフトな牛革製、春めいたアイボリーカラー。MADE IN JAPAN。

B.

10名様



TAEKOサンスクリーン
株式会社アーダブレン

SPF50+ PA++++。お肌と環境にやさしい日焼け止め美容液。紫外線吸収剤・揮発性油剤・界面活性剤など一切無添加。

▼ メールからのご応募限定 ▼

C.

500ml
24本入り
3名様



午後の紅茶ミルクティー

東京キリンビバレッジサービス株式会社

紅茶葉のkokのある香りとミルクの濃厚な味わいを引き出した、本格アイスミルクティーです。

D.

555ml
24本入り
3名様



香ばし麦茶

東京キリンビバレッジサービス株式会社

二条大麦と六条大麦を使用、麦本来の香ばしい味わいを引き出しました。
(カフェインゼロ・無香料・無着色)

E.

500ml
24本入り
5名様



DONATION WATER

AQUA JACKET株式会社

購入すると1本につき3.9円が日本赤十字社へ寄付されるDONATION WATER。富士山山麓で採水された天然水です。

プレゼント応募方法

①郵便番号 ②住所 ③お名前、フリガナ ④年齢 ⑤性別 ⑥メールアドレス ⑦希望するプレゼント番号 ⑧本誌入手場所 ⑨本誌で良かった記事 ⑩本誌の感想(100字程度)を明記し、**メール**または**はがき**でご応募ください。抽選でプレゼントが当たります！

締切は**2020年5月31日**必着。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

メール

nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

件名には「プレゼント応募」とご記入ください。



はがき

添付の専用はがきでご応募ください。

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただきます。製造状況等によりプレゼントの内容が変わる場合もございます。

協賛品募集中！ お問い合わせは ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

読者の声 (vol.24)



名前や制度は知っているものの、実態をよく知らなかった「献血」。学校や職場で献血カーが来ているのを見たことがあります。献血ルームでは場所ごとの特色もあるようで、興味が湧きました。自宅近くの献血ルームを探してみようと思います。予約もあるので便利だなと思いました。
東京都・26歳・女性(役所)

これまで献血の基本や、献血した血液の行方など、詳細はあまり知らずに献血を重ねてきました。「もっと知りたい!献血」で、それらを知ることができ、献血した血液の役割をより具体的に感じるようになりました。

神奈川県・55歳・男性(ハチ公前献血ルーム)

東日本大震災から9年が経とうとしているなか、被災者の様子が報道されることは年に数回しかなくなった。自分自身も東京で震度5弱の揺れを職場で経験し、帰宅に苦労したが、そのことも遠い記憶になってしまっている。記憶が風化していくのはやむを得ないが、それでも思い出すきっかけは必要で、今回の記事を読んで改めて、その大切さを実感した。

東京都・36歳・男性(有楽町献血ルーム)

地域を「つなぐ」存在を目指して

令和2年度 東京都支部事業計画

東京都支部では、創立130周年を契機に「東京都支部近未来ビジョン130」を策定し、その達成にむけて取り組んできました。

そのなかでも特に「人々に安全・安心を与え続けられる存在」を目指すため、事業を進めるテーマとして「地域」を掲げ、地域の皆さまと共に歩み課題解決を目指す関係の構築に努めてきました。

今後は、これまでの「地域」を基本としながら、より連帯を強め赤十字の事業を継承していくことを目標とする、「つなぐ」という新たなテーマに基づき行動していきます。

今年度は、いよいよ東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。赤十字社としても平和の祭典の成功へ向け取り組みとともに、これまでご支援頂いている皆さまと手を取り合い、より良い地域社会の実現に向けて努力して参ります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

令和2年度 東京都支部歳出予算 内訳

項 目	予算額	割 合
救護・救援活動	658,527千円	36.8%
奉仕団・青少年赤十字の支援	188,173千円	10.5%
救急法等講習会の実施	80,092千円	4.5%
献血推進	15,005千円	0.8%
看護師養成	14,400千円	0.8%
赤十字会員の加入促進	196,359千円	11.0%
広報活動	68,411千円	3.8%
社会福祉施設の運営	29,001千円	1.6%
社屋修繕等	103,452千円	5.8%
資金積立金（災害等・施設整備）	50,000千円	2.8%
活動の運営管理	386,580千円	21.6%



事業計画について
詳しくはコチラ

東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会に対する取り組み

観客救護をはじめとする救護活動による支援

「武蔵野の森総合スポーツプラザ」会場における観客救護及び東京都から依頼のある開会式・閉会式、各種競技における観客・ラストマイル（最寄り駅と会場の間）の救護を確実に実施し、大会に関係する皆さまの安全・安心に寄与します。

あわせて、炎暑下での救護活動における暑熱対策をはじめ、マスギャザリング※・イベントに万全を期して対応します。

※マスギャザリング…大きなイベントなど、いつもと違う大人数が集まる場で、多数傷病者が発生すると災害化するリスクが高くなる状況のこと。



赤十字クリーンプロジェクトの実施

東京2020応援プログラムとして承認されている赤十字クリーンプロジェクトを大会の開催期間中も実施します。

男子ロードレース、女子ロードレース、男子・女子パラリンピックマラソンの3種目の会場沿道を清掃し、赤十字ボランティアの活動を活性化するとともに、国内外の観客が快適に過ごすことのできる環境整備の一助となるよう取り組みます。

今後、こうした取り組みを東京2020大会のレガシーとして、地域コミュニティ形成の中核事業へと成熟させていきます。

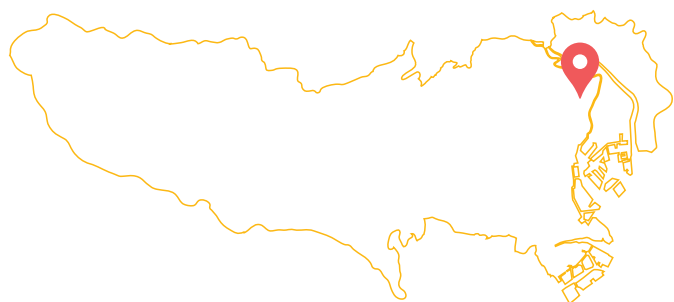




+ 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京をく観光しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社契約写真家である菅原一剛氏。東京の写真を取り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原一剛HP <http://ichigosugawara.com/>
東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp/>



Rediscovery TOKYO

東京を、再発見しよう

今や国内外から花見客が押し寄せる“上野の桜”。江戸初期、徳川家三代に仕えた天海僧正がここ上野に寛永寺を建立した際、奈良・吉野から移植した桜がその始まりだという。

境内は当時も庶民に解放されていたものの、飲食は禁止され、いまの上野の花見とはかなり様相を異にしていたらしい。静かに桜を楽しむ江戸の人々の姿も、さぞ趣深かったことだろう。

幕末の動乱期には寛永寺と境内はその大部分を消失。一時は焼け野原となったこの場所は1873年に日本初の公園に指定され、その後も“上野の桜”は地域の人々などの手によって守り継がれてきた。

江戸から令和へ。戦火や震災、移り変わる時の流れのすべてを、桜はこの場所で見守ってきたはずだ。

咲き誇る桜の下、お酒を楽しむのももちろんいい。しかし、桜木の年輪に刻み込まれた歴史にひととき思いを馳せる、時にはそんな花見もいいのではないだろうか。

第18回

上野

赤十字職員からNT読者の皆さんに、お役立ち情報をお伝えする「職員通信」。
第8回は赤十字防災セミナー指導者の職員から、防災マップの確認ポイント
についてお届けします。

職員
通信
Vol.8

知っていますか？
あなたのまちの防災マップ

災 害には日頃からの備えが大切ですが、非常食などのモノだけではなく、自分の住む地域がどのような災害に強く、弱いのかを知っておく「知識」も重要な備えになります。

それには防災マップの確認が有効です。はじめに、自身のお住まいの地域について、水害時の浸水域や地震時の揺れやすさなどをチェックしてみましょう。

次に、避難所などの施設や危険な場所がないかを確認し、災害が起きた時の行動を考えてみます。また、一人暮らしのお年寄りや障がいのある方など、災害時に周囲の手助けが必要な人についても確認しましょう。「自助」と「共助」両方の考え方で確認することが重要です。

これらは町会などの防災組織の皆さんと一緒に確認することが望ましいですが、まずはご自分の自宅周辺からチェックしてみませんか？

パソコンやスマートフォンなどで地図を見ながら確認してみましょう！

行政機関、医療機関

市区町村役場、消防・警察署、病院・診療所、社会福祉施設など

地域防災に役立つ場所

避難所、食料・日用品の販売店、消火栓、プールなど

災害時に頼りになる人・場所

自治会役員、福祉関係者、公衆電話、コンビニエンスストアなど

災害時に手助けが必要な人

一人暮らしのお年寄り、障がいのある人、小さなお子さんがいる人など

危険な場所

浸水・土砂崩れなどの想定箇所、危険物貯蔵施設など

地図で確認したら、実際に歩いてみましょう！



今回、お届けしたのは…

日本赤十字社東京都支部 救護課 救護係長

青柳 健一 あおやぎ けんいち

東京都赤十字血液センターを経て、現在は東京都支部に勤務。2019年度に赤十字防災セミナー指導者の資格を取得し、防災セミナーを通じて地域の皆さまへ防災・減災の知識をお伝えしています。趣味は、バスケットボール観戦。家族は妻と子ども3人。休日は家族と公園で遊んでリフレッシュ！

防災マップをはじめとした
防災情報は、こちらのアプリ
からも簡単に確認できます！



Android



iOS



東京都防災アプリ

